

2018年10月31日
株式会社 リクルート キャリア

2018年7-9月期 転職時の賃金変動状況

「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は30.2%

前年同期比0.3ポイント上昇

株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：小林 大三）が提供する転職支援サービス『リクルートエージェント』における2018年7-9月期の「転職時の賃金変動状況」を報告します。

「転職時の賃金変動状況」では、“転職決定者の賃金は転職前後でどのように変化しているのか”という点に着目し、「前職と比べ賃金が明確に（1割以上）増加した転職決定者の割合」の経年変化を観察していきます。

※2頁以降に、職種別動向、およびトピックスの解説を記載しています。

【算出式】

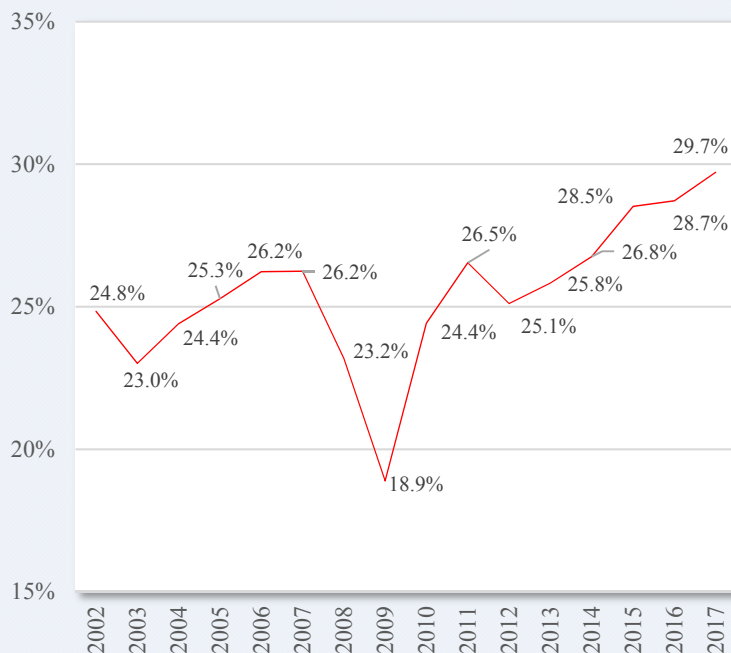
$$\frac{\text{「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者数」}}{\text{「転職決定者数合計」}} \times 100 \text{（単位：％）}$$

※ 前職（転職前）の賃金は時間外労働等の「変動する割増賃金」を含む一方、転職後の賃金にはそれらが含まれないため「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は実態よりも低めの値となる傾向があります。

■ 全体

- 7-9月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は30.2%。
 - 2013年度以降、上昇基調が続いており、2018年7-9月期も前年同期比0.3ポイント上昇。

【年度推移】



【四半期推移】



【本件に関するお問い合わせ先】

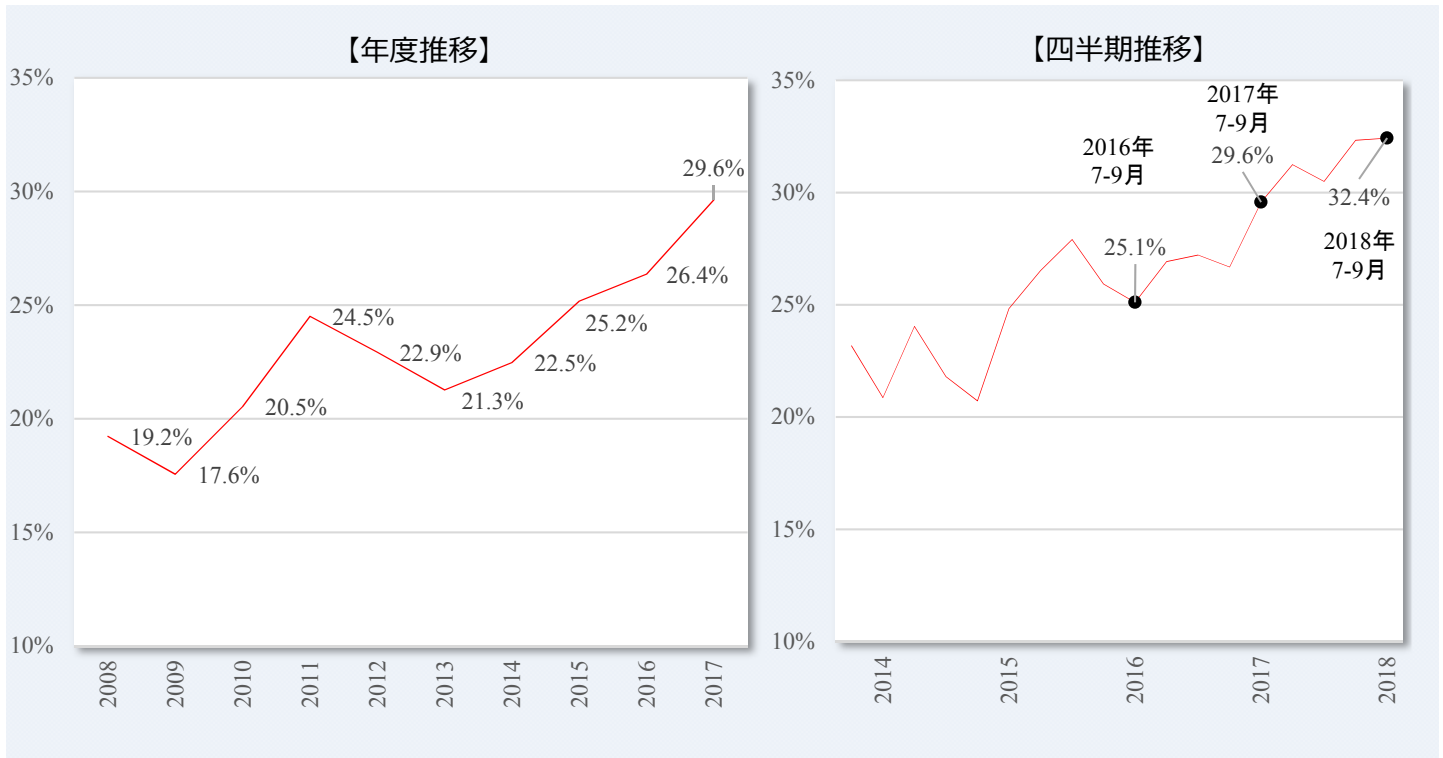
株式会社リクルートキャリア 広報部 社外広報グループ
TEL: 03-3211-7117 Mail: kouho@waku-2.com

リクルートキャリアではこれからもひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指していきます。

■ 職種別

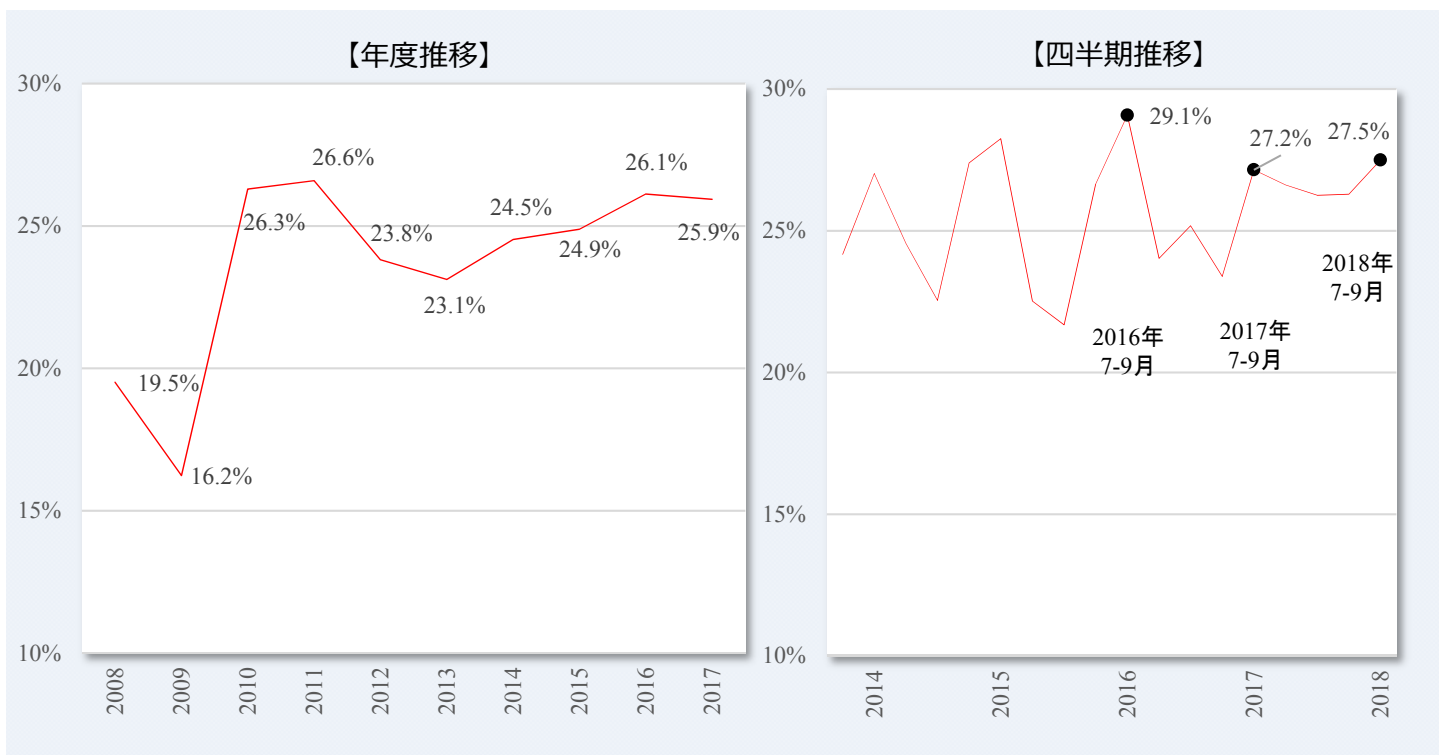
● IT系エンジニア：7-9月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は32.4%。

－ 2014年以降上昇基調が続いており、2018年7-9月期も前年同期比2.9ポイント上昇。



● 機械・電気・化学エンジニア：7-9月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は27.5%。

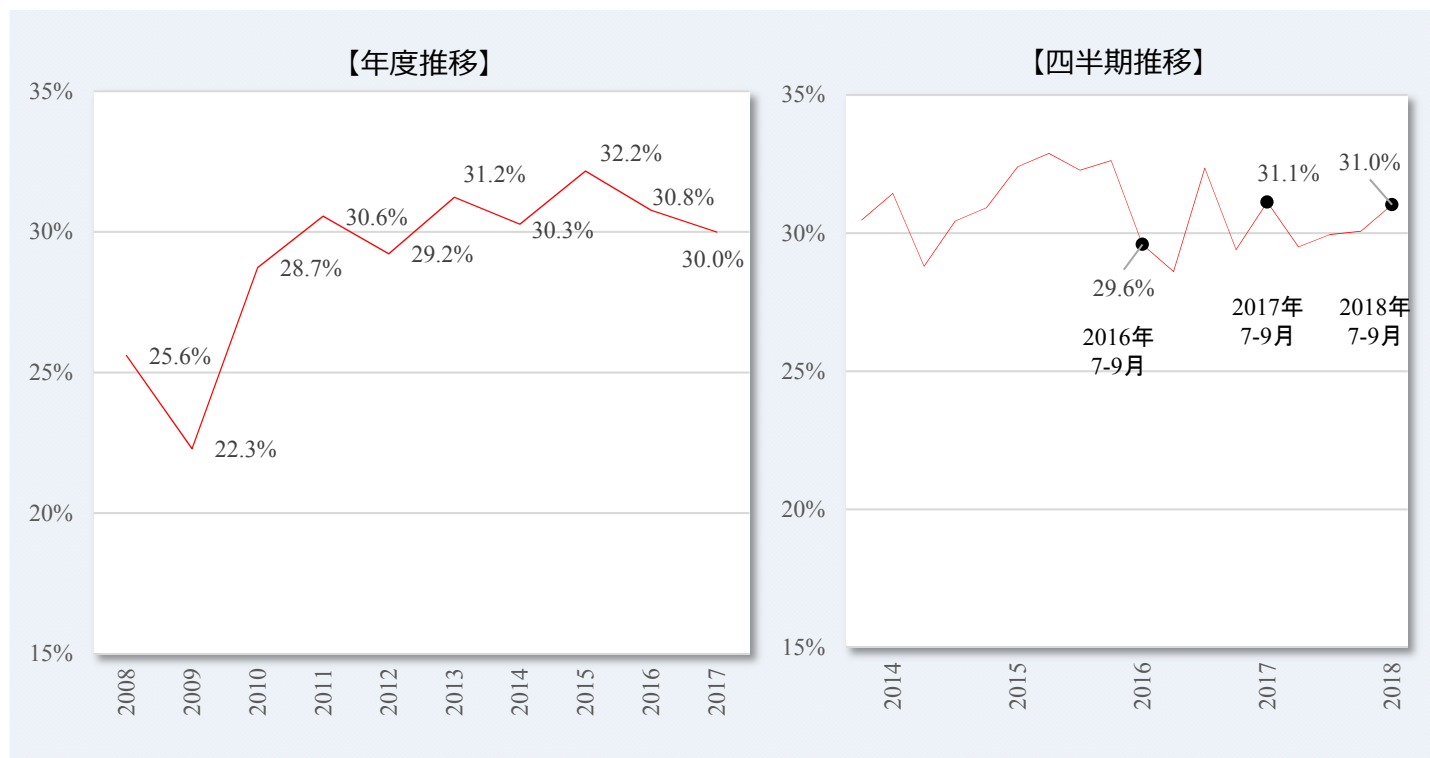
－ 2016年以降は、振れを伴いつつも、概ね横這い圏内の推移が続いている。



■ 職種別

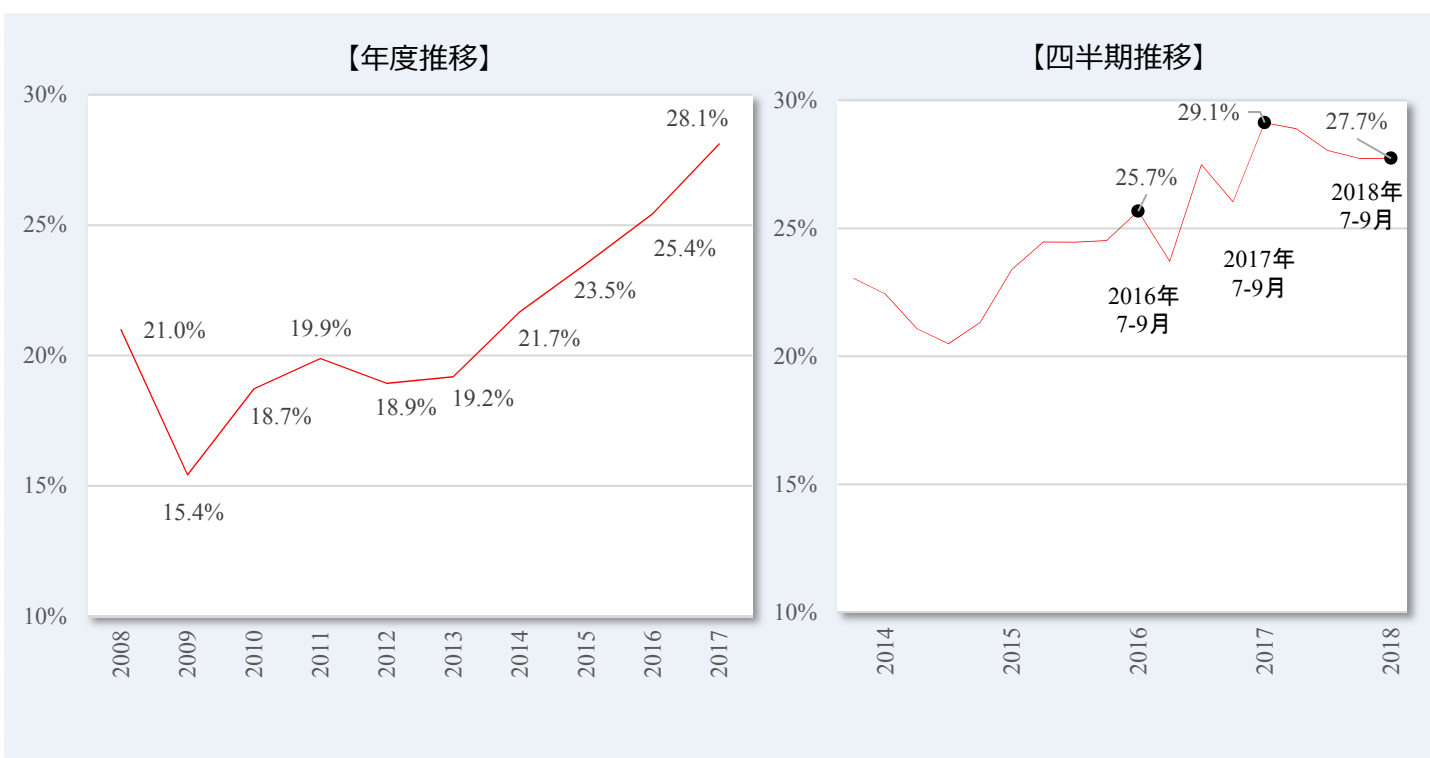
● **営業職**：7-9月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は31.0%。

－ 2016年に幾分水準を下げた後は、振れを伴いつつも、概ね横這い圏内の動きが続いている。



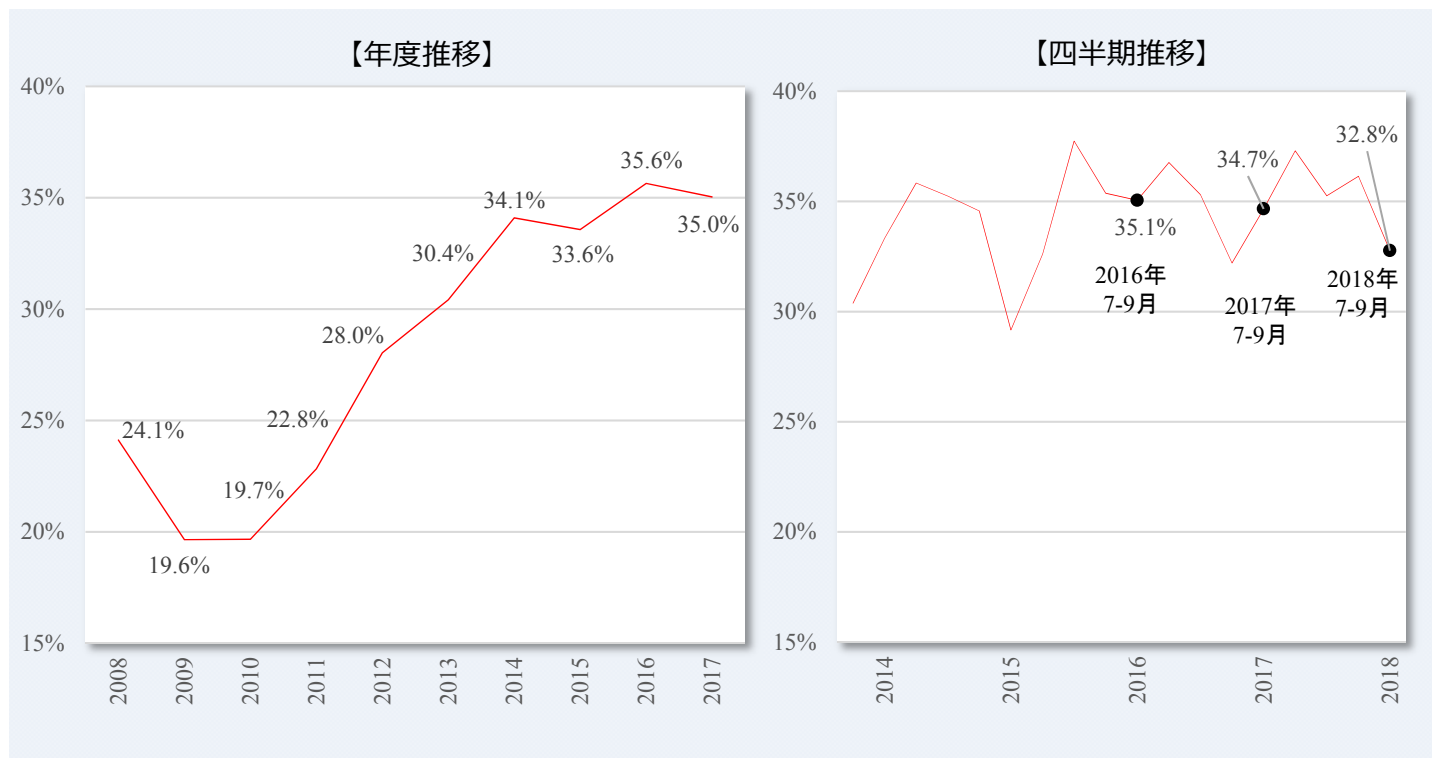
● **事務系専門職**：7-9月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は27.7%。

－ 2014年以降上昇基調が続いていたが、2018年7-9月期は前年同期比1.4ポイント低下と、幾分弱めの動きとなった。



■ 職種別

- **接客・販売・店長・コンサルタント**：7-9月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は**32.8%**。
 - 2015年度以降は概ね横這い圏内の動きとなっているものの、水準としては高いレベルを維持している。



免責事項：

掲載されている数値は、転職支援サービス「リクルートエージェント」のデータをもとに、リクルートキャリアが独自に算出したものです。情報の正確性については万全を期しておりますが、その時点での提供可能な情報であり、その正確性を保証いたしかねますこと、あらかじめご了承ください。またシステムにおける障害の発生、システムのメンテナンス等のため、情報提供を一時的に停止する場合があります。

IT系エンジニアにおける賃金増加者割合上昇の背景には、製造業の変革があった

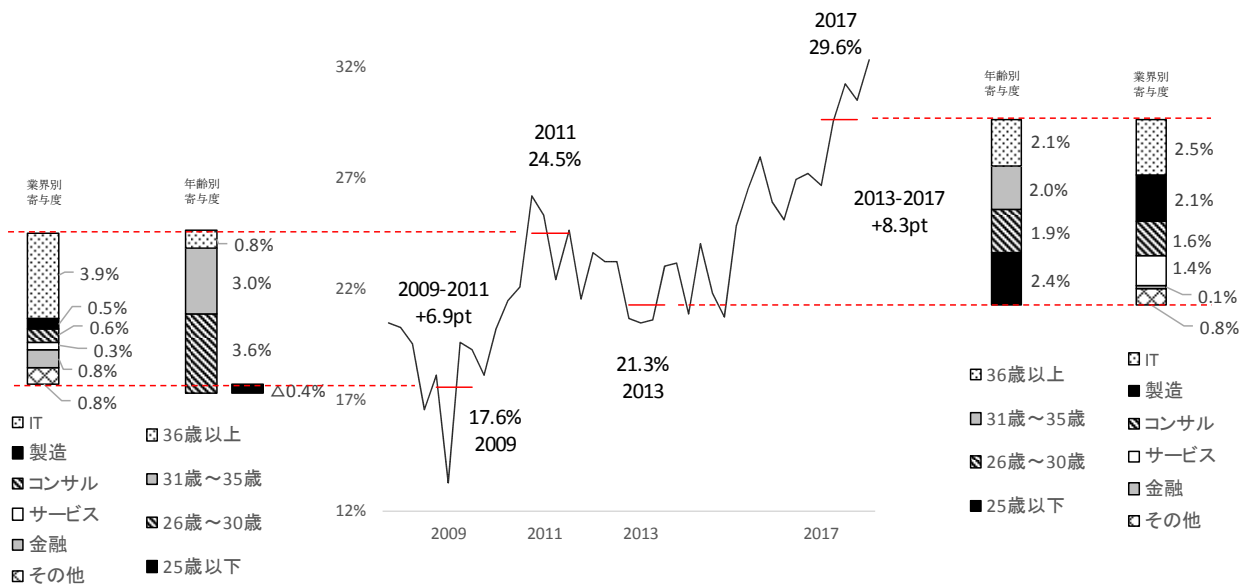
下図は、IT系エンジニアにおける当指標の推移である（P2上段に一致）。リーマン危機後の2009年度から2011年度にかけて、当指標は大きく改善していた。この改善の“背景”を探るために業種別／年齢別の寄与度を算出したところ、IT業界の寄与が高く、年齢層については26歳～35歳の寄与が大半を占めていた事がわかった。リーマン危機後の景気回復局面で、“IT”業界に“IT”エンジニアのニーズが戻ってきた事は特筆すべき事ではない。また、年齢についても、26歳～35歳というのは転職におけるボリュームゾーンである。

一方、第二次安倍内閣発足後、2013年度から2017年度にかけての上昇局面について、同様に寄与度を算出すると、IT業界に続いて、製造業の寄与が目立つ。加えて、コンサルティング業、技術者派遣業※といった様々な業界からの引き合いが強まっている。年齢については、36歳以上の寄与が比較的大きい点が印象的である。

この間、製造業では、自動運転関連技術の開発が本格化し、組込・制御ソフトウェア開発エンジニアやSEの求人が急激に増加している。特に経験豊かな人材の引き合いが強くなり、結果として36歳以上の転職者も増加した。また、こうした新たなニーズに対応するにあたっては、自社採用のみでなく、コンサルティング会社や技術者派遣※の利用も増えているといった声もあり、これらの業界の採用に対しても、少なからず影響を与えていると考えられる。

※ 技術者派遣業界は、下図ではサービスに含まれる

IT系エンジニアにおける「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者」の割合
業界／年齢による寄与度分解



【寄与度分解の方法】

$$U_t - U_{t-1} = \left(\frac{S_t}{N_t} \times \frac{S_{u_t}}{S_t} - \frac{S_{t-1}}{N_{t-1}} \times \frac{S_{u_{t-1}}}{S_{t-1}} \right) + \left(\frac{O_t}{N_t} \times \frac{O_{u_t}}{O_t} - \frac{O_{t-1}}{N_{t-1}} \times \frac{O_{u_{t-1}}}{O_{t-1}} \right)$$

右辺第1項と第2項は、属性Sの寄与度、第3項と第4項は、属性S以外の寄与度。
 N_{t-1} : t-1年度の転職決定者数、 S_t : t年度の転職決定者のうち、属性Sの人数、 O_t : t年度の転職決定者のうち、属性S以外の人数、 N_{u_t} : t年度の転職決定者のうち、転職前後で賃金が1割以上増加した人数、 S_{u_t} : t年度の転職決定者のうち、転職前後で賃金が1割以上増加した属性Sの人数、 O_{u_t} : t年度の転職決定者のうち、転職前後で賃金が1割以上増加した属性S以外の人数、 $U_t = \frac{N_{u_t}}{N_t}$: t年度の賃金が1割以上増加した転職決定者の割合



経営統括室 高田悠矢

1985年生まれ。2010年 日本銀行入行。

景気動向や金融システムの分析業務に従事したほか、資金循環統計やGDP統計（内閣府出向時）の推計手法設計に携わる。

2015年 株式会社リクルートキャリア入社。

景気・労働市場動向の分析、中期計画策定等を担当。経営統括室における主務の傍ら「転職時の賃金変動状況」の企画立案や、人事課題に対する機会学習的ソリューションの検討等、内外両方の労働市場において、データ起点の新たな取組みに挑戦している。

■ 職種分類対応表

毎月公表している「転職求人倍率」における職種分類と「転職時の賃金変動状況（当資料）」における職種分類は以下の通り対応しています。

転職求人倍率 職種	転職時の賃金変動状況 職種	
S E	IT系エンジニア	
インターネット専門職（Webエンジニア含む）		
組込・制御ソフトウェア開発エンジニア		
電気エンジニア	機械・電気・化学エンジニア	
機械エンジニア		
化学エンジニア		
メディカルエンジニア		
医療技術者	事務系専門職	
食品エンジニア		
建設エンジニア		
品質管理・品質保証／認証・品質分析		
生産管理・生産管理コンサルタント		
法務・知財		
内部監査・内部統制		
総務・広報		
人事		
経理・財務		
マーケティング		
経営企画・事業企画・業務企画		
資材購買・物流・貿易		
営業		営業職
接客・販売・店長・コールセンター		接客・販売・店長・コールセンター
流通専門職		
不動産専門職		
金融専門職		
オフィスワーク事務職		
デザイナー		
制作・編集・ライター		